

1-4-4. 六甲摩耶観光推進協議会（兵庫県神戸市）

（1）アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

【人口】136,753人（兵庫県神戸市灘区）

【面積】32.66 km²（兵庫県神戸市灘区）

【地勢】

兵庫県神戸市灘区に位置する。

【気候、自然】

六甲山は、温暖な瀬戸内に位置するが、標高 931m のため、神戸市街地よりも、気温が平均して 5℃～6℃低く、夏は冷涼、冬は最低気温が氷点下となることが多い。

【歴史】

明治中期に神戸市街地の外国人たちにより、夏の避暑地として観光開発が始まる。大正から昭和にかけて、別荘地の分譲や、ホテル、ケーブルカー、ロープウェイ、植物園、遊園地、ドライブウェイなどが順次整備され、眺望や自然環境などが楽しめる都市近郊のリゾートが形成される。昭和 31 年には、瀬戸内海国立公園に編入される。

【観光】

（交通アクセス）

六甲ケーブル、まやビューライン（摩耶ケーブル、摩耶ロープウェイ）、六甲有馬ロープウェイ、表六甲ドライブウェイ、裏六甲ドライブウェイ等（観光施設、体験施設）六甲高山植物園、自然体感展望台六甲枝垂れ、六甲山スノーパーク、六甲山牧場、森林植物園、六甲ガーデンテラス、自然の家、六甲山 YMCA など

（宿泊施設）

六甲山ホテル、オ・テルド摩耶、六甲スカイヴィラなど

（展望スポット）

天覧台、掬星台、六甲ガーデンテラスなど

●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

六甲山・摩耶山地区は、都市近接の自然環境エリアとして、多くの市民により、ハイキングやトレッキング、登山などが、日常的に楽しまれている。また、大阪湾一帯を望む眺望や夜景、四季折々の自然などを楽しむ観光客が、国内外から訪れる観光地としての側面もある。

特に近年は、海外からの観光客も増加傾向にあり、大阪や京都、神戸などの都市観光とともに、眺望や、自然（紅葉、雪など）を求めて六甲山を訪れるケースが増えている。

また、国内においても、健康増進や自然の中での諸活動へのニーズの高まりを感じており、六甲山・摩耶山の魅力をさらに高め、より多くの方に、その魅力を体感・体験していただくことで、六甲山・摩耶山のファンを増やしていきたいと考えている。

そのために、かつて、エリアとして取り組んできた「エコツアープログラム」に、改めて戦略的に取り組み、魅力あるプログラムの創出と提供を通じてファン作りに努め、また、それらの取り組みを継続させるための人材育成や、組織の構築を行うことで、最終的には、それらを「六甲山・摩耶山のエコツアープログラム」としてブランド化を目指していきたいと考えている。

(2) アドバイザー派遣の実施概要

日	時	平成 29 年 3 月 15 日（水）～平成 29 年 3 月 16 日（木）
場	所	六甲山・摩耶山（兵庫県神戸市灘区） 【視察箇所】 六甲ケーブル、天覧台、旧山形山荘、六甲山カンツリーハウス、六甲山 YMCA、神戸市立自然の家、摩耶山掬星台、六甲山牧場、六甲スカイヴィラ、六甲高山植物園
ア	ド	川嶋 直 氏（公益社団法人 日本環境教育フォーラム理事長）
参	加	者 【3/15（水）】計 12 名 環境省神戸自然保護官事務所 神戸市経済観光局観光コンベンション課 神戸市灘区まちづくり課 六甲山観光株式会社営業企画室 六甲山 YMCA 館長、神戸市立自然の家 所長 六甲山牧場、六甲スカイヴィラ支配人 【3/16（木）】計 8 名 環境省神戸自然保護官事務所 神戸市経済観光局観光コンベンション課 神戸市立森林植物園 六甲山観光株式会社 営業企画室、アミューズメント課
スケジュール・方法		【1 日目】 13:00 六甲山上で昼食・ミーティング （スケジュール確認、各施設の概要等の説明） 14:00～19:00 六甲山上各施設（※）の視察、課題等の説明 19:00 夕食・ミーティング（視察、課題説明を踏まえた意見交換） 20:00 六甲山上ホテル泊 （※）六甲ケーブル、天覧台、旧山形山荘、六甲山カンツリーハウス、六甲山 YMCA、神戸市立自然の家、摩耶山掬星台、六甲山牧場、六甲スカイヴィラ 【2 日目】 9:00～9:30 六甲高山植物園の視察、課題等の説明 9:30～12:30 ミーティング （各施設の視察及び課題等を踏まえたアドバイス、質疑応答） 12:30～13:30 昼食・ミーティング（意見交換）

(3) アドバイスの内容（議事録）

■組織づくりについて

- ・ キープ協会（山梨県清里）における環境教育事業の発展過程について説明を受けた。最初は一人で始めた事業であったが、少しずつ大きくしていき、仲間を増やしていった。約 30 年かけて、現在では、スタッフ数で約 30 名の規模の組織に成長しており、また、事業としても成り立っているとのこと。
- ・ 環境教育事業を発展させていくためには、PDCA サイクルをしっかりと回しながら（特に C のところ）、プログラムの改善につなげていくことが必要。
- ・ スタッフの採用・育成については、キープ協会では 1996 年から始まった研修生制度（11 ヶ月）があり、その研修生の中から新規のスタッフを採用している。

■プログラム開発について

- ・ ちょっとした小道具を使って自然の見方を変えることが出来、例えば、小さな鏡を使って森の中を下から見上げて歩くことで、森の様子が鮮明に見えてくることや、鏡を 2 枚合わせて、その間に木の実などを置き、鏡の角度を変えることで、万華鏡のような光景を作り出せることなどの事例を紹介していただいた。

■グループワーク

- ・ レクチャーの後には、グループワークとして、六甲山・摩耶山地区でエコツアープログラムを進めるにあたっての「課題」と「可能性」をそれぞれ紙に書き出し、ホワイトボードにそれらを貼り出し、参加者間で、共有した上で、それぞれの内容についての、アドバイザーとの質疑応答や、参加者間での意見交換を実施した。
- ・ 課題として多かったのは、「継続していくため」の仕組みづくりや、人材育成、リーダーシップ、広報面（どのように伝えていくか。関西以遠への情報発信）といったこと、可能性としては、多種多様な施設や素材があり多様な切り口での連携が可能であることや、自然と文化とを合わせた魅力が作れること、などがあげられた。

■各施設視察及び、現地説明の様子



■講義、グループワークの様子



(4) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

- ・各施設の現状や、課題等について共有できた。
- ・「エコツーリズム」の可能性への期待と、それを軸とした施設間連携に向けての機運が高まった。

2) 今後、期待される効果

- ・「エコツーリズム」を軸に、各施設単体ではなく、「六甲山・摩耶山」エリアとして、広報や、プロモーションをかけることで、集客力を高めることができる。
- ・単体施設では、実施プログラムのバリエーションや、ボリュームに限界があるが、エリア全体として束ねることで、利用者にとって魅力のある、ボリュームやバリエーションを出すことができる。

3) 今後の取り組み

- ・2017年度夏季に向けて、まずは、各施設でのエコツーリズム関連の既存プログラムを集約し、共同でのプロモーション（パンフレット、ポスターの制作及び、WEB等での情報発信及び、山上の案内所での案内、紹介等）を実施する。
- ・新規のプログラム開発や、実施プログラムのエリア全体での最適化、プロモーション効果の最大化に向けて、エリア内でのミーティングを定期的に開催する。

(5) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

- ・キープ協会での環境教育プログラムの発展の過程や、また、プログラム開発においても、「ちょっとした」工夫で、魅力的なプログラムをつくるということが可能であるということが、今後の実践に向けて参考になった。
- ・グループワークの際に、KP法（紙芝居プレゼンテーション）についてのレクチャーをしていただいたが、今後、エリア内でのミーティングの際に、課題の整理や、解決策の検討の際に、「情報及び思考の整理法」として活用ができそうである。

2) その他感想

- ・川嶋氏には、急遽のお願いで、大変多忙なところ時間を作っていただき、アドバイスに来ていただいた。エリア滞在は、短い時間とはなったが、食事をとりながらのミーティングも含めて、経験豊富な川嶋氏から、色々なお話を聞くことができ、また、中身の濃い、アドバイスを受けることができたことは、非常にありがたい経験となった。
- ・また、今回のことをきっかけに、「エコツーリズム」を軸として、エリア内（施設間）連携の機運を高められたことも、とても良かった。
- ・この機運を逃さず、エリア全体で、エコツーリズムの推進に取り組んでいきたい。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

川嶋 直氏 (公益財団法人 日本環境教育フォーラム理事長)

1) 地域における取り組みの現状と課題

①現状

今回 2 日間の視察で以下の各施設にご案内いただいた。

「六甲山カンツリーハウス：六甲山スノーパーク（六甲山観光株式会社）」

「山形山荘（六甲山観光株式会社）」

「六甲山 YMCA」

「神戸市立自然の家」

「六甲山牧場」

「六甲スカイヴィラ」

「六甲高山植物園(六甲山観光株式会社)」

また、2 日目の川嶋からのレクチャーと意見交換会では、神戸市立森林植物園の園長さんも参加され資料の提供を受けた。

上記の施設は、数多くある六甲山・摩耶山地区の観光施設や体験型レジャー施設の一部ではあるが、各施設においては既に様々なエコツアーに関連するプログラムや、体験プログラムが実施されている。

今回依頼を受けた六甲摩耶観光推進協議会では、まずは各事業者が現状で実施しているプログラムを「六甲山・摩耶山のエコツアー・プログラム」としてとりまとめ、統一ブランドとして広く全国に発信することで、近隣の市民のみならず神戸市の都市観光と合わせて、神戸市以外からの観光客にも気軽に参加してもらい、六甲山・摩耶山の自然の魅力に触れてもらう機会を増やしたいということだった。

また六甲山ならではのエコツアー・プログラムを複数開発することで、より魅力のあるプログラムを提供したいと考えていると聞いた。

②課題

各事業者の取り組みをとりまとめる仕組みやマンパワーが、現状では不十分であることと、エコツアー・プログラムを開発し、継続的に実施するための人材や、事業化のノウハウが不足していることなどが課題。

そうした課題をクリアするために 2009 年に六甲摩耶推進協議会内に「エコツアー」部会を立ち上げ、また、2012 年同協議会や神戸新聞などが中心になって「六甲山大学」を立ち上げたのではなかったのか。この事務局役を担っていたホールアース自然学校が 2014 年に六甲から撤退してしまったことが、上記課題が現在でも残っていることに大きく影響しているということなのだろうか。このあたりの詳細経緯は、そこまで突っ込んだ意見交換が出来ておらず未確認である。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

都市に近接して素晴らしい自然環境があり、その地形の特徴からその山腹から海方向を眺める眺望が素晴らしいポイントが何箇所もあること。また、神戸市街からのケーブルカーやロープウェイなどのアクセスが充実していること。その他、六甲山及び摩耶山の山頂間のエリアが東西に比較的なだらかな地形で、エリア内にはハイキングコースや観光施設、宿泊施設などが複数存在していることなどが挙げら

れる。

②上記地域資源に魅力を感じた理由

この地域には3種類の顧客がいると思われる。まずは、神戸市とその近辺の住人たちが300万人近くいると言われている。日常的にこのエリアで様々な体験が出来る層だ。次に、国内観光客「神戸」ブランドでやって来る人たちが多いのだろうか。数的には大阪エリアからの観光客が多いだろうが首都圏などからも関西旅行の先として「京都→大阪→神戸」は揺るぎない観光地なのだと思う。そして最後にインバウンドの観光客。神戸の都会的な観光資源の体験からほんの数十分で国立公園の大自然と触れ合うことが出来る。冬場にはスキーなど雪の体験も出来るインバウンド観光客には非常に魅力的な地域と感じられる。

3) アドバイス（講義等）の概要

- ・山梨県清里での、財団法人キープ協会（川嶋が1980年代から30年間に勤務した）における自然体験型環境教育プログラムの発展の経緯を紹介した。最初は一人で始めた事業を少しずつ大きくしていき、今ではスタッフ数で約30名の規模に成長し、事業としても成り立っていることを説明した。
- ・キープ協会の環境教育事業が事業として成長していったプロセスでは、PDCAサイクルをしっかりと回し、個人・団体などのクライアントからのフィードバックを丁寧に受け止めて、次のプログラム改善・事業改善につなげていくことが必要。
- ・スタッフの採用・育成については、1996年から始まった研修生制度（11ヶ月）があり、その研修生の中から新規のスタッフを採用している。
- ・ちょっとした小道具を使って自然の見方を変えることが出来る、いくつかの自然環境プログラムをスライドを使って紹介した。小さな鏡を使って森の中を下から見上げて歩くような「スキヤキハイク」。白く丸いシールに目玉を描き森の木に貼り付けることで木に「顔」が生まれてくる「目玉っち」。その他、森で俳句を詠んだり（森の句会）、今日の体験の感想を感じ一文字で書いてみたり（一筆入魂）などを紹介した。
- ・川嶋からのレクチャー（約2時間）を聞いた後には、約10名の講義の参加者から、六甲山・摩耶山地区でエコツアープログラムを進めるにあたっての「課題」と「可能性」をそれぞれ紙に書き出してもらった。出された「課題」「可能性」をホワイトボードに一覧掲示して共有した上で、それぞれの内容についての参加者との質疑応答を通じて、参加者間の相互理解の促進を図った。

※上記は川嶋が六甲山滞在中に直接皆さんにお伝えしたアドバイスだ。以下に滞在中にはお伝えしきれなかったことを書いてみる。

- ・上記2) ②でも書いたが、この地域はすぐ目の前に数百万人が住んでいる。その人たちにとっては、とても手軽に(数百円&数十円の負担で)このエリアに来ることが出来る。また神戸への観光客は2,000万人超という数字がある。そのうちの100万人はインバウンドの観光客とも言われている。言うまでもなくインバウンドはこれまでの日本人の行動パターン（週末や連休・夏休みに集中）に関係なく、その谷間を埋めてくれる可能性を持っている存在だ。この「地域住民」「国内観光客」「インバウンド観光客」の3種の顧客に対して、それぞれどのようなサービスを提供しようとするのかを整理することが大事。つまり「どう売するのか（ブランディングも含めて）」ということを考える以前に、「誰に対して（ターゲティング）」「何を売するのか（プログラム開発）」の整理をすることがまずは必要なので

はないだろうか。

- ・いずれにしても、周辺住民&既存の観光客は数万人あるいはそれ以下というようなエリアと比べて何と恵まれた地域なのだろうと思う。今回訪問時に紹介したキープ協会（山梨県北杜市）の場合八ヶ岳の山梨側（北杜市）の住民は数万人だし、観光客も 200 万人程度だ。今回訪問した六甲山エリアとはまさに桁違いの数字だ。
- ・しかし、地域に住む人、国内から観光で訪れる人、海外から観光で訪れる人、この3種の誰もが顧客（あるいは顧客予備軍）であるということは、他の観光地とは違う価値や魅力を付与することが出来るということなのかも知れない。具体的なアイデアは浮かばないが、キー（鍵）は地元の顧客のような気もしている。地元の「顧客」が「サポートスタッフ」に移行するような仕組みが出来ればとも思うのだが。
- ・「アイデアは組み合わせだ」と良く言われている。例えば保育園と老人ホームをひとつの建物に入れたら双方に非常に良い影響が生まれ win win になったという話は各地で耳にする。六甲摩耶観光推進協議会の皆さんが言うような、六甲山にすでにあるポテンシャル同士の組み合わせも重要なことは言うまでもないが、神戸市の大学・学校や様々な施設・組織との組み合わせも無限にあるように思える。六甲山の中だけのポテンシャルを考えるのではなく、神戸全体のポテンシャルをどのようにして六甲で活かして行けるかを考えてはどうだろう。1時間圏内に幾つもの大学があるとは本当に羨ましい。植物園・動物園・美術館・博物館など様々な社会教育施設もあるだろう。音楽・演劇・芸術など様々なエンターテインメントの人材もいるだろう。豊富なポテンシャルをどう組み合わせるか？考えるだけでもワクワクしてきませんか？

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

①全体構想への取組状況について

同地域においては、現在のところ、全体構想にまで検討は及んでいない。

②全体構想策定への意向について

把握していない

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

把握していない

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

この地域では、既に様々な事業者において、エコツアープログラムや体験プログラムが実施されている。また以前には、ホールアース自然学校の六甲山分校が設置されるなど、エコツーリズムの推進に力を入れていた時期もある。今回依頼を受けた六甲摩耶推進協議会の事務局では、地域の統一ブランドの下にエコツアープログラムの活性化を目論んでいるが、一過性のものにとどまることなく、その取り組みを少しずつでも推進、継続していくことが大切である。推進していくにあたって継続的なアドバイスや支援が必要な場合には、川嶋から神戸や大阪を拠点としている専門家たちを紹介することもできる。「六甲山・摩耶山」ならではのエコツーリズムの確立を、ぜひ目指して欲しい。